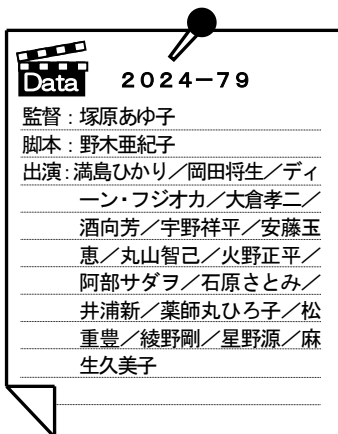




みどころ

「ラストマイル」とは、「最終拠点からエンドユーザーへの物流サービスのことを指し、客へ荷物を届ける最後の区間を意味する言葉」だが、まずはデリリーファストことデリファス社の物流倉庫の巨大さにビックリ！こんな巨大かつ精密なシステムなればこそ1個150円で荷物が家庭まで届けられるわけだが、ドライバー不足をはじめとする「2024 年問題」とは？その解決策は？

そんな時代状況の中、都内では次々とデリファス社から配達された荷物の爆発事件が！これは事故？事件？ひょっとしてテロ？その捜査は警察の仕事だが、本作では『愛のむき出し』（08 年）で「狂気とも呼ばれる領域に達した芝居」を魅せた、私の大好きな女優・満島ひかりが、シャーロック・ホームズ並みの推理力と、「24 時間働けますか？」と問われていた“昭和のおじさん族”と同じような職場への忠誠心で犯人探しを展開するのでそれに注目！

謎のメモと偽CMの謎は難しすぎるし、シェアード・ユニバース作品へのこだわりはナンセンスだが、企画の斬新さと満島ひかりの演技力に敬意を表して、本作は星4つ。

■□■ このタイトルはナニ？テーマは？舞台は？ ■□■

「ラストマイル」とは聞き慣れない言葉だが、Wikipedia によると「ラストワンマイル」とも言うこの言葉は、「最終拠点からエンドユーザーへの物流サービスのことを指し、客へ荷物を届ける最後の区間を意味する言葉」と解説されている。そんなタイトルを付けられた本作のテーマは一体ナニ？それは、近時「2024 年問題」として大きな焦点になった流通問題。つまり、安く、早く、何でも安全に、家庭に、配送される利便さはあるがたいものの、2024 年にはドライバー不足をはじめとして、それを維持していくことは不可能になっ

てしまうという大問題だ。

野木亜紀子氏が書いた本作の脚本は、「今や空気のように当たり前になっている流通インフラにもし爆発物が紛れ込んでしまったら」という問題意識から始まったそうだ。そんな本作の舞台は、世界規模のショッピングサイト、デイリーファスト、通称“デリファス”の西武蔵野ロジスティクスセンターだが、まずはこの物流倉庫の巨大さにビックリ！こんな巨大な物流システムの下に多くの運送店があり、荷物1個当たり150円で各家庭に配達しているわけだ。もっとも、それは「配達できれば」の条件付きだから、留守だったり受け取ってもらえなければ配達業者は一銭ももらえないから大変だ。なるほど流通業界の問題点は根深いようだ。

そう思っていると、本作冒頭では11月、流通業界最大のイベントの一つ、ブラックフライデーの前夜に、デリファスから配達された段ボールが爆発する事件が発生したからビックリ！これは何らかの事故？事件？それとも、誰かが仕組んだテロ？

■□■シェアード・ユニバース作品とは？満島ひかりに注目！■□■

私が本作に注目したのは、主演が私の大好きな女優・満島ひかりだったため。他方、監督の塚原あゆ子氏も脚本の野木亜紀子氏も私は全く知らない人だ。Wikipediaでは、本作はTBS系金曜ドラマ枠で放送されたテレビドラマ『アンナナチュラル』と『MIU404』との世界観を共有する“シェアード・ユニバース作品”と解説されているうえ、本作のパンフレットには両TVドラマの詳しい解説も収録されている。しかも、本作の出演者はべらぼうに多いが、それは両TVドラマの出演者が本作には総動員されているためだと知ってビックリ！

そもそも私は人気TVドラマを下敷きにした安易な劇場版映画を制作・公開するシステムに大反対だから、シェアード・ユニバース作品にも反対だ。もっとも、それは本作鑑賞後に知ったこと。鑑賞前、沖縄出身の女優・満島ひかり主演作品への期待感でいっぱいだった！私が女優・満島ひかりを初めて知ったのは、園子温監督の『愛のむきだし』（08年）（『シネマ 22』276頁）を観た時。同作は作品自体も度肝を抜く傑作だったが、当時ほとんど無名だった彼女の演技は園子温監督をして「もはや狂気とも呼べる領域に達した満島の芝居に全てが圧倒された」と言わしめるほどのすごいもので、報知映画賞、ヨコハマ映画相、毎日映画コンクールなど多くの新人賞を受賞した。そんな満島ひかりの久々の主演だと知って、こりゃ必見！期待感いっぱい！

■□■外資系なら女性センター長も納得！その働きぶりは？■□■

1980年代のバブル絶頂期の日本は、昭和のおじさんたちが先を争って懸命に働いていたから、「24時間働けますか？」と呼びかける過激なコマーシャルまで登場した。遊ぶ方でも、深夜までの飲み会やディスコ通いに励んだ後、帰りのタクシーを捕まえるため1万円札を振り回すという異様な風景まで登場した。ひるがえって、平成の「失われた20年」を経て令和の時代に入った今、明日を担うはずの若者たちの働きぶり（働かなさぶり）とし

らけぶりは如何に？

そんな愚痴ばかりこぼしている私には、舟渡エレナ（満島ひかり）がデリファスの巨大物流倉庫のセンター長に新たに就任し、同センターでのチーフマネージャー歴が2年になるという梨本孔（岡田将生）がそれを出迎えるシーンを見て、ビックリ！西武蔵野ロジスティクスセンターは正規の幹部社員こそ数名だが、パート従業員は数百名を誇る巨大組織だが、そのセンター長にエレナのような若い女性（？）が就けたのは一体なぜ？それはデリファスが外資系企業だから。デリファス・ジャパン本社の総括本部長・五十嵐道元（ディーン・フジオカ）は日本人だが、エレナはある事情でニューヨークの本社から直接、センター長に任命されたい。なるほど、なるほど。さらに、何事も前向きでアクティブなエレナに対して、若者のくせに常にどこかしら感を見せる梨本も、人間関係を重視する日本企業での勤務に嫌気がさして、外資系のデリファスに転職したとの告白を聞くと、なるほど、なるほど。

センター長に就任したばかりのエレナがテキパキと梨本に業務指示を与えている姿は「さすが！」と感心するものの、就任直後に起きた爆発事故がデリファスから配達された段ボールの爆発によるものであることがわかり、糸巻貴志巡査部長（金井勇太）と小田島克己警部（丸山智己）を中心とする警察組織が物流倉庫に乱入してくると、さあ大変。爆発物チェックのために万が一にでも倉庫の巨大システムを止め、配送障害が発生すれば、配達を待っている顧客が大変なら、会社の損失は莫大なものになる。医療品を届けるメディカル便が届かなければ手術もできなくなるから、人命の危機さえも。さらに、荷物を1個150円で配達して生計を立てている佐野運送の佐野昭（火野正平）や佐野亘（宇野祥平）たちもたちまちアウトだ。そんな中、若い女性ながら、さすが外資企業の超優秀社員とわかるエレナの「24時間働けますか？」を実践する働きぶりや捜査陣に対応する姿に注目！

■□■奇しくもブラックフライデーの翌日に本作を鑑賞！■□■

あなたは流通業界最大のイベントの一つ、「ブラックフライデー」を知っている？私は中国で毎年ト派手に続けられている11月11日の「独身の日」は知っていたが、寡聞にして、「ブラックフライデー」については何も知らなかった。しかし、私が本作を鑑賞した11月23日土曜日は、奇しくもブラックフライデーの翌日だったからビックリ！

前記のように本作はシェアード・ユニバース・ムービーだから、TV番組に登場していた①松本家、②UDI ラボ（不自然死究明研究所）、③東央医科大学病院、等本筋とあまり関係のないストーリーやエピソードが無理やりこじつけたように展開するのはいただけない。離婚し、女手一つで2人の娘を育てている松本理帆（安藤玉恵）のイライラ感もわからないではないが、そんな物語が「2024年問題」最大のテーマである流通の危機とどんな関係があるの？そう思っていると、ブラックフライデーのプレゼントとして、ある日、ある商品が届けられるストーリーが爆破事件と大きく関係してくることに……。なるほど、なるほど。もともと、そんな脚本作りをお見事というかどうかは別問題だが……。

■□■謎のメモと偽CMの謎は？その解明が犯人に直結！？■□■

本作は2024年問題＝流通問題をテーマにした社会問題提起作だが、同時に冒頭に見る爆破事件の犯人は誰だ？その動機は何だ？というミステリー映画になっている。そこで提示される“謎”の第1は、導入部における、あるロッカーの扉の内側に書かれた2.7%の文字。これはセンター内で荷物を運んでいるベルトコンベアの速度だが、このメモは一体ナニ？そして、これを書いたロッカーの主は誰？

“謎”の第2は、流通センター内に泊まり込んで仕事に励むエレナと梨本が見つけた、デイリーファスト (DAILY FAUST) という偽CM・デイリーファスト (Daily Fast) との違いはUが一つ入っていることだけだが、この偽CMの影響によってアクセス数が急上昇したことを知った五十嵐は、爆破事件が続く中でセールの品目を増やすアイデアに賛同したが、その当否は？

他方、名探偵シャーロック・ホームズ並みの推理力を見せる(?)エレナは、この偽CMから爆弾が全部で1ダース＝12個存在すると推理したが、その根拠は？そしてその当否は？私には、この謎はあまりにも難解すぎるものと思うのだが……。それはともかく、偽CMを制作した広告代理店の発注主から、CMの依頼主として元デイリーファスト関東センターのチームマネージャー山崎佑(中村倫也)の名前が急浮上してきたからすごい。

すると、この男が爆破犯の最有力候補！そう思ったが、山崎は5年前にセンター内でベルトコンベアの上に落下したことで大怪我を負って退職した上、怪我がもとで重度の意識障害に陥り、東央医科大学病院に収容されていたから、彼が爆破犯でないことは明らかだ。2つの謎が解明したらそれが即犯人に直結！エレナと梨本はそう思ったが、コトはそれほど単純ではなさそうだ。

■□■山崎佑はなぜ？恋人の覚まりかはなぜ？■□■

もっとも、山崎が意識を失う前に「バカなことをした」と呟いていたことを、当時病院でアルバイトをしていた久部六郎(窪田正孝)が聞いたとの証言を得たエレナと梨本は、警察の捜査とは違う操作を続け、山崎の恋人の覚まりか(仁村紗和)にたどり着いたからすごい。ただ、ロッカーに残されたメモの謎と偽CMの謎をエレナと梨本が解明していくストーリーは難解すぎて、私にはわかりづらい。その上、梨本の前の関東センターのチームマネージャーとして勤務していた山崎が、日夜動き続けるベルトコンベアの職場のために次第にやる気をなくし、高いところから飛び込んでまで(?)2.7m/sで動くベルトコンベアを止めてみたかったのかという点についてのエレナと梨本の心理分析も、私には十分納得できるものではない。また、そんなダイビング(?)によって山崎が植物人間状態になってしまったことに恋人の覚まりかが悲しむだけでなく、巨大物流を支配するデイリーファストという会社そのものに恨みを抱いたのも当然だが、それが本作冒頭に見るような爆破事件に直結するの？そこらあたりのストーリー構成とエレナと梨本による推理の展開が私にはイマイチだ。

さらに警察官の毛利忠治（大倉孝二）と刈谷貴教（酒向芳）が現場を指揮する警察組織の無能ぶりと馬鹿さ加減は、エレナの優秀さをより目立たせるためだが、日本の警察がこんな体たらくでいいの？いくら裁判所の搜索差押命令をもらったからといって、あの巨大物流センター内を 2.7 m/s で動くすべての荷物を差押さえ、一個一個爆発物のチェックをするなんてことが不可能なことは誰の目にも明らかだ。

しかして今、エレナはなぜ自分が急遽センター長に赴任することになったのかについて、デイリーファストのニューヨークの本社に確認すべくニューヨークに向かったが、そこでエレナが新たに発見した様々な事実、手がかりとは？本作中盤にスピーディーに展開していくエレナと梨本による爆破犯探しのストーリーはかなり難しいが、それなりに面白いので、その詳細はあなた自身の目でしかりと。

■火野正平の遺作に！安倍サダヲも本来の味を！■

1949 年 5 月生まれの俳優・火野正平は私と同じ年齢だが、若き日の彼は相当なプレーboy として名を売っていた。若き日の彼が出演した NHK 大河ドラマ『国盗り物語』（73 年）、『草燃える』（79 年）、そして『必殺シリーズ』等での彼はとにかくカッコよかった。また、2011 年からは、日本全国を自転車で巡る NHK・BS プレミアム『につぼん縦断 ころろ旅』で旅人を務め、若き日とは全く違う姿を見せてくれていた。そして 75 歳になった今、本作では、息子と 2 人で 1 個 150 円の荷物を運ぶ小さな運送店の親父役を誠実に演じている。

原因も不明、動機も不明の爆破事件の続発が東京都民を一気に不安に落とし入れたのは当然だが、「ひょっとして俺が運んでいる荷物に爆発物が！？」最初にそんな不安に駆られるのは、第一線で荷物を運ぶ配達業者だ。しかして、本作にわざわざ末端の配送業者として佐野父子を登場させたのはなぜ？それは、第一線でそのリスクにさらされる佐野親子の心の動きをうまく表現し、さらに、あわや大爆発！でお陀仏になろうとするシークエンスを演出するためであることは明白だ。佐野父子がなんとか危機一髪、それを免れたのはラッキーだったが、残念ながら俳優火野正平は 11 月 14 日、腰椎の圧迫骨折のために死亡してしまったから残念！合掌！

他方、11 月 2 日に見た『十一人の賊軍』（24 年）の主人公を演じたのは山田孝之だったが、新発田藩の家老としてストーリー全体を牽引し、最後にはあつと驚く形で死んでいったサブ主人公を演じたのが阿部サダヲだった。カメレオンのようにどんな役でも器用にこなす彼は、本作ではデイリーファストからの商品運搬の委託を受けている大手の運送業者、羊急便の関東局オフィスの中間管理職として、一方では上司にこき使われ、他方ではエレナからのハチャメチャな指示に振り回される中年男・八木竜平役を味わい深く演じているので、それにも注目！

2024（令和 6）年 11 月 28 日記